十ポ
四号アキ
二段多

わが歌日記

十六ポ

吉井勇

十二ポ

十二月廿七日、街に出でて慌ただしく往き交ふ人を見れば、西鶴ならねど大つごもり近き、胸算用など思はれてをかし。

八ポ

鋪石（しきいし）に冷（つめ）たき雨の降る見ればいつか師走も今

過ぎたり

さむざむて師走の街（まち）に風吹きて納（おさ）め~~の~~不動（どう）も近づきぬらし

人はみな己が足を以て道の上（へ）に無常（むじやう）の二字（にじ）を書きつつぞゆく

西鶴（さいかく）の浮世冊子（うきよざうし）のあはれさを師走の街に見せて、~~凄~~往くに

塩鰤（しほぶり）のあからさまなる寂しさを見せて凩（こがらし）街（まち）に

ひっかかる